

【校長室の窓】 R 3年6月

## 各部奮闘した高総体、そして川棚高校から全国大会へ続々！

川棚高等学校長 畑野 公昭

6月は、県高総体での各部の奮闘と全国へとつながる部の輩出に、おおいに勇気づけられました。

県高総体では、各部とも昨年コロナ下で出場できなかった卒業生の先輩の思いを噛みしめつつ、これまで築いたメンバーの絆をもとに、全力を出し切ったのではないかと思います。6月10日の高総体報告会で、「初戦突破を果たした」「ベストを更新した」「一生懸命ボールを追った」「川高らしい粘り強いプレーができた」…反省を踏まえつつも充実した活動として振り返る各チームのキャプテンの言葉には力があり、次の代へのバトンが確かに手渡されたように感じました。

その折、昨年の高総体以来、部員6名マネージャー2名で、人数不足のため高総体に参加することは叶わず、今年度で部を閉じるサッカー部の話はとりわけ心に響きました。サッカー部は、週に2回、サッカーを楽しむことをモットーに笑いの絶えない部として活動し、誰一人やめることなく続けてきたことが誇らかに語られ、昨年急逝された中村和樹先生や顧問の先生方に受けたサポートに感謝の言葉を述べてくれました。サッカーが好きなメンバーが欠けることなく最後まで続けられた活動の日々は宝石のように輝いていると思います。部がなくなることは残念ですが、有終の美を飾ってくれたことを心からねぎらいたいです。

さて、川高から全国への先鞭を切ったのは、報道部の放送班。6月13日に開催されたNHK杯全国高校放送コンテスト長崎県大会のラジオドキュメント部門で優秀賞を獲得し、全国大会への切符を手に入れました。川高で歌い継がれている愛唱歌「忘れないよ」の誕生から今に至るまでを追った「忘れないよ ～川高愛唱歌の軌跡～」というタイトルのラジオ番組です。

続いて6月19日～21日にかけて大崎自然公園交流広場で開催された全九州高等学校体育大会ホッケー競技で、県高総体で優勝した男子ホッケー部が3位を獲得。本大会から出場した女子ホッケー部が優勝し、富山で開かれる全国高校総体（インターハイ）へのアベック出場を果たしました。両チームとも、昨秋の全九州ホッケー高等学校ホッケー選抜大会の初戦で敗退した悔しさをバネに、競技の基礎力と攻守にわたる連携プレーを磨き、本大会で見事にリベンジを果たしました。

県高総体3000m障害走で3位に入賞し、北九州大会に出場した陸上部の田中悠朔君の健脚も光りました。陸上部の駅伝大会での健闘を期待したいと思います。

全国大会の出場に関しては、生徒の活動に協力やアドバイスをしていただいた皆様に深くお礼を申し上げます。創立80周年に彩りを添えたホッケー部、報道部放送班の全国大会での益々の活躍を祈るとともに、更なるご声援、ご支援をいただきますようお願いいたします。